

令和7年度三つの方針

広島県立広島叡智学園中学校・高等学校 全日制課程（普通科）	
1 教育目標	「学びの変革」の目指すべきモデルとなる学校として、学びを通じて平和な社会づくりを実現し続ける存在となることのできる人材を育成する。
2 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても地域や世界の「よりよい未来」を創造できるリーダーとなる生徒を育成するというヴィジョンの下、次の①～⑤の5つの資質・能力の育成を目指す。 ① 様々な場面で活用できる知識・技能の深い理解 ② 新しい価値を生み出す創造的・批判的思考力 ③ 異なる文化・価値観を持つ人々と協働する力 ④ 目標に向かってやり抜く力・自信 ⑤ 日本語でも英語でも議論・協働できる高い語学力
3 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	国際バカロレア（IB）認定校として、日本の学習指導要領の土台の上にディプロマプログラム（DP）を導入した特色ある教育活動を展開し、在籍生徒全員が異なる文化的背景をもつ人と議論・協働できる高い英語力を身に付けるとともに、DPの最終試験において、自己の進路実現に必要な得点を取得することができるような教育課程を編成している。 1 育成を目指す資質・能力との関係 どの教科・科目においても、授業ではグループワークを基本として設計している。このことにより様々な学習活動の中で「協働する力」を身に付ける。また、DPにおいては、2科目以上を第2言語（本校では英語）で履修することが定められており、難度の高い教育プログラムの学習活動に取り組むことにより、「高い語学力」や「知識・技能の深い理解」「創造的・批判的思考力」を身に付ける。さらに、このDPの資格取得に向けて、自ら目標・計画を立て主体的に最後まで取り組むことにより「やり抜く力・自信」を培う。 2 教科横断的な学び、主体的・対話的で深い学びに係る教育課程上の特徴 本校では、各単元や授業においてターゲットとするATL（学習のアプローチ）スキルを整理し、生徒及び教員間で共通理解をしながら授業を展開することにより、すべての教科の学習をとおして生徒の資質・能力の向上に努めている。 また、中等教育プログラム（MYP）では「教科横断型単元（IDU）」を集中的に実施する「IDU week」を年1回設定し、教科の枠を越えたプロジェクト型学習を展開している。DPでは、「知の理論（TOK）」を中心とした知識に関する問いを探究の中心においた教科横断的な学習を行なっている。 3 日本の一条校の卒業資格とDPの資格取得を可能にする教育課程の編成 高校1学年の12月まではMYPのカリキュラムの枠組みを用いて、学習指導要領に定められている必修科目を中心に教育課程を編成する。高校1学年の1月からは、DPの教科・科目を学校設定教科・科目として展開し、一部は学習指導要領に定められている科目に読み替えることにより、在籍生徒全員が高校の卒業資格を取得できるように教育課程を編成している。
4 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	「グローバルな視野」と「地域に根ざした心」の双方を大切に、主体的に学び続ける「ラーニングコミュニティ」を形成するという「価値（バリュー）」に共感し、学びを通して平和な社会づくりを実現し続ける存在になりたいという強い意欲を持つとともに、本校が提供するIBDPの履修に求められる基本的な「知識・技能」や「創造的・批判的思考力」などの資質・能力を有している生徒を受け入れる。